



地域を超えた一体感 「水を守る」環境保全型農業

- 活動時期 → 通年
- 活動場所 → 主に嶺北地域
- 主な活動メンバー： 職員・農家さん
- 【ホームページ】
<http://www.tosa-reihoku.ja-kochi.or.jp/>

(取り組み内容)

吉野川流域に面したれいほく5ヶ町村が連携し、豊かな自然環境の中で環境保全型農業を実践し「れいほく八菜」として販売。

◆産地を守る農業

昔は水に問題があると、川下から川上へ「なんとかしろ！」と言われていたが、それを逆転させ、川上から川下へ水を守ることを発信しなければならないと減農薬農業を実践。
綺麗な水があるから農業ができ生活ができる。

「水を守る」= 「農地の荒廃を防ぐ」+ 「農家の減農薬」

→ 最も厳しい「ISO」の取得にチャレンジ!

※1 地域 1 品目でなく、地域・品目を超え
地域全体でやらなければ意味がない!

→ 253 の農家 (地域全体) で実践。

作るものが違っても、作り方も違うため共通させることが難しいため、仕事後にISO勉強会なども数多く実施。

→ ISOにより地域がひとつに。

■取り組みの一環として、廃棄していた牛フン・食物残渣の堆肥化、古いビニールなどのエネルギーリサイクルも実践。

【成果】

- ・平成18年にJAの日本農業賞「大賞」を受賞!
品目を超えた取り組みが高く評価される。
- ・ISOが定着したことから、現在は自己宣言に切り替え。
自分達を律してより厳しく取り組んでいる。



堆肥センター

◆取り組みのポイント ～取り組みによる生産者の変化～

- ・仕事が増えると反対 → 水を守りゆうという自負心。
- ・自分の技術は教えたくない → 自分だけではなく皆がよくなるかん！
(結果、農地のチェックもお互いが行うように)

◆今後の展望

～オンリーワンからブランド化へ～

【ターゲットは四国】

減農薬は当たり前になりつつある昨今。ただ、安心安全というだけではブランド化はできない。そこで、売り込むメインターゲットを吉野川の恩恵を受ける四国内の地域に絞り、水の価値や大切さをしっかり伝えることでブランド化を目指す。

【課題】 吉野川流域に暮らしていても川への意識は低い

【解決案】 流域の小学校を中心に環境教育を実施！
(水の大切さ、水を守る取り組みなど)

※CO2 を排出してでも人口の多い都市部に送るか。

人口は少なくとも近場の人にしっかり認識してもらうか。
れいほくは後者に力を入れて取り組んでいく！

その他、ナスやプチヴェールなど、調理が必要な食材に対して、調理法や食べ方を伝えるなどして、価値を高めていきたい。
(RKC料理教室と協力し、レシピ作りなども行っている)

【他団体との連携】

「水を守る」という大テーマのもと、農業分野だけでなく、行政や、畜産・林業といった他の組合とも連携を密にすることで、嶺北の魅力を守り、高めていきたい。

◆取り組みの課題

- ・新規就農者や後継者が極端に少ない。
- ・高齢化による品種の変更（重たい作物から軽い作物へ）
などもなかなか難しい。

◆県民のみなさんへ一言

- ・れいほく八菜マークの付いている野菜は自信をもって勧められます。ぜひ一度食べてみてください！
- ・水を守る環境教育は無料で実施しています。都合が合えばいつでもお伺いしますので声をかけてください。
- ・機会があれば、この野菜をつくっている現場を一度見ていただきたいです。ぜひ嶺北へお越しください。



れいほく八菜。今は品種も増えてきている



れいほくの環境サイクル



信頼の野菜とれいほく八菜マーク